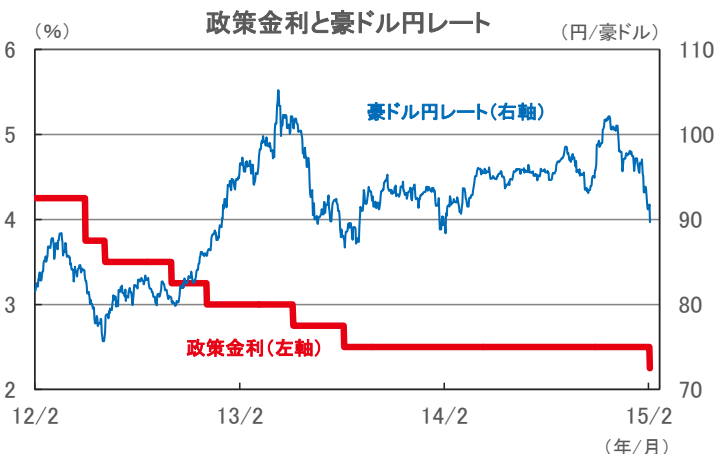


今日のトピック オーストラリアの金融政策(2015年2月) 約1年半ぶりの利下げを決定

ポイント1 過去最低の2.25%に

市場予想に反し0.25%の利下げ

- オーストラリア準備銀行(RBA)は3日、政策金利を0.25%引き下げ2.25%としました。2013年8月に利下げして以来約1年半ぶりの利下げです。
- 声明文では、「内需が弱含むなか、今回の利下げにより需要の下支えが期待される」とし、利下げが景気の下支えにねらいがあることを明らかにしました。物価については「今後1~2年の物価見通しがインフレ目標に沿う」との従来の見方が維持されました。
- 市場では29名のエコノミストのうち22名が据え置きを予想しており大方の予想に反する決定です。予想外の決定を受け、声明文発表直後、株価は上昇、豪ドルは下落しました。

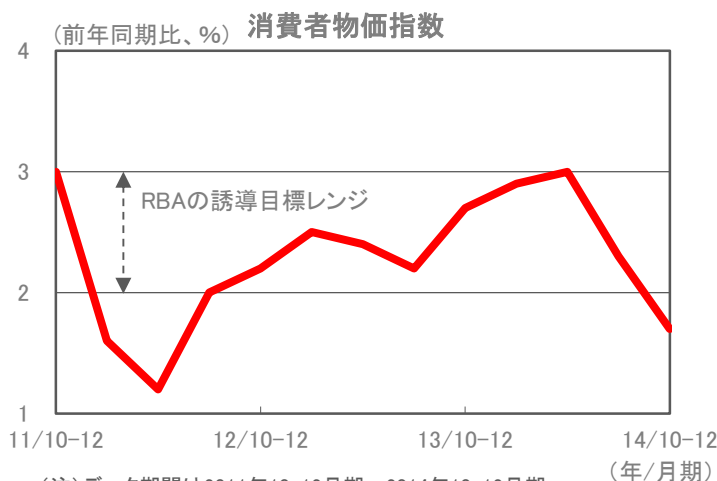


(注) データ期間は2012年2月1日～2015年2月3日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価上昇率は低下基調

輸出には底入れ感も

- 賃金上昇率の伸び悩みや原油・資源価格の下落により、物価上昇率は低下基調にあります。
- 足元で消費がやや弱含んでいる一方、住宅市場は金利の低下を背景として引き続き拡大基調にあります。
- 輸出は、資源価格が下落しているものの中国向け鉄鉱石などが拡大していることから、底入れ感もうかがわれます。



(注) データ期間は2011年10-12月期～2014年10-12月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気拡大や高配当は引き続き株式やリートを支える見込み

- 低金利と雇用の緩やかな改善傾向などから、RBAは経済成長率が当面年+2%台半ばで推移すると見ています。
- インフレ圧力の低下により追加利下げの可能性はあるものの、景気の底堅さから利下げ余地は限定的と見られます。
- 緩和的な金融環境が続く見通しのなか、比較的

高い成長率や配当利回りの高さなどが好感され、株式やリートは上昇基調が続くことが期待されます。債券は国債の高い信用力などから堅調な推移が見込まれます。

- 豪ドルは、主要国と比べ高い金利水準や日銀の強力な金融緩和が継続しそうなことから、対円で底堅く推移する見込みです。

ここも チェック!

2015年01月27日 最近の指標から見る豪州経済(2015年1月)
2014年12月17日 2015年のオーストラリア経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。